

シルク博物館令和 4 年度年報

シルク博物館

令和 5 年 6 月

シルク博物館令和4年度年報

目次

1	ごあいさつ	1
2	建物の概要	2
3	令和4年度のおもな出来事	2
4	事業	3
(1)	展示事業	3
	ア 常設展示	
	イ 春の企画展 シルク博物館所蔵品展「紬のきもの」	
	ウ 秋の特別展 横浜・生糸ものがたりⅢ「横浜から世界へー海を渡った生糸ー」	
(2)	教育普及事業『チャレンジ！かいこプログラム』	5
	ア 第1弾 蚕種配布	
	イ 第2弾 かいこ教室	
	ウ 第3弾 団体利用・ワークショップ	
	エ 第4弾 たのしいかいこの発表会	
(3)	実演・講習会	9
	ア くみひも作り体験	
	イ 手作り真綿の実演と講習会	
	ウ スカーフ染め体験	
(4)	講座・講演会	10
	ア 外部講師による講座「きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷」	
	イ 常設展示ギャラリートーク	
(5)	夏の個人向け蚕種配布	11
(6)	博物館実習生の受入れ	11
(7)	連携事業	11
	ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2022」	
	イ シルキークリスマス	
(8)	資料活用事業	13
	ア 購入	
	イ 寄贈	
	ウ 特別利用	

エ 収蔵品の修復	
(9) 刊行物	13
(10) 執筆	14
(11) レファレンス	14
(12) 後援・協力	14
ア 後援等	
イ 他機関への協力	
(13) 職員の派遣	15
(14) 広 報	16
ア 春の企画展	
イ 秋の特別展	
ウ チャレンジ！かいこプログラム	
エ 講座	
オ ワークショップ、実演	
カ 常設展、基本情報	
キ その他	
(15) その他	18
ア オリジナル商品の開発	
5 資料	19
(1) 組織と職員	19
(2) 事業費	19
(3) 所蔵資料	19
(4) 入館者状況	20
(5) 過去の特別展・企画展一覧	21

1 ごあいさつ

シルク博物館は昭和 34（1959）年 3 月 12 日、横浜開港 100 年記念事業として建設されたシルクセンタービル内に開設され、絹に関する知識の普及・伝承、絹製品の需要促進、国際貿易及び観光の振興等に寄与するとともに、魅力ある博物館として特別展・企画展等の充実や、蚕やシルクの理解促進のための教育普及事業等に取り組んでまいりました。

令和 4 年度は、引き続き新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けながらも、様々な感染防止策を講じることにより、春・秋の展覧会を始め、絹や蚕に関するワークショップ、学校教育と連携した教育普及活動を実施するなど、計画していたシルク博物館ならではの事業を全て展開することができました。また、各関連団体や他施設との連携事業においても、一般財団法人大日本蚕糸会と実行委員会が主催する全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう 2022」に他の蚕糸関係博物館 4 館とともに参加するなど、蚕糸業への理解を深めていただく新たな取り組みを始めることができました。

新型コロナウイルスの感染症が感染症法上の 5 類に移行し、今後 WITH コロナの生活様式が定着していく中で、シニア層の外出機会の回復に加えて、国内外の観光客の増加が見込まれています。こうした回復基調の中でも、基本的な感染防止対策を継続しながら、小中学生や県内、近隣県の方々を中心に、これまで以上に、より多くの方にシルク博物館にお越しいただき、楽しんでいただけるよう努めてまいります。今後とも、シルク博物館の活動にご理解とご協力をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和 5 年 6 月
シルク博物館

2 建物の概要

【博物館】

展示面積（2 階）	798.00 m ² （241.39 坪）※受付前、ミュージアムショップを含む
（3 階）	558.03 m ² （168.80 坪）
イベントホール	212.72 m ² （64.35 坪）
第一収蔵庫	21.76 m ² （6.58 坪）
第二収蔵庫	46.24 m ² （13.99 坪）
映写室	24.48 m ² （7.41 坪）
準備室	62.62 m ² （18.94 坪）
図書室	67.80 m ² （20.51 坪）

改装 昭和 44（1969）年（開館 10 周年記念）
平成 11（1999）年（開館 40 周年記念）
平成 24（2012）年（開館 53 周年記念）

【シルクセンター】

所在地 神奈川県横浜市中区山下町 1 番地
構造 地下 2 階、地上 11 階、塔屋 2 階
建築面積 3,853.53 m²（1167.7 坪）
延床面積 25,332.02 m²（7,676.3 坪）
設計監理 坂倉準三建築研究所
施工 鹿島建設株式会社
経過 起工 昭和 32（1957）年 11 月
竣工 昭和 33（1958）年 11 月（一部）、昭和 34（1959）年 3 月 12 日（全館竣工）
開館 昭和 34（1959）年 3 月 12 日

3 令和 4 年度のおもな出来事

春の企画展 「紬のきもの」の開催
秋の特別展 横浜・生糸ものがたりⅢ「横浜から世界へ―海を渡った生糸―」の開催

1 事業

(1) 展示事業

ア 常設展示

年間を通して蚕の飼育展示、繭やシルクの科学、絹製品ができる過程、衣食住にかかわる絹製品、蚕糸業の歴史、日本の復元時代風俗衣装人形、重要無形文化財保持者をはじめとした現代作家の着物、掛袱紗、アジアを中心とした民族衣装、蚕織錦絵など、シルクに関するさまざまな展示を、展示替えを行いながら展開した。また、世界の民族衣裳展示の18世紀フランス時代衣装のマネキンを、ドレスに適合したボディに更新し、着装して展示した。

イ 春の企画展

シルク博物館所蔵品展「紬のきもの」

「紬」は真綿から引き出した紬糸で織られる絹織物で、糸に太さの違いや節があるため独特の風合いがある。養蚕が行われていた地域では、生糸を生産する過程でできる屑繭や出殻繭を利用して紬を織り、自家用の衣料として用いてきた。農閑余業として生産されるようになった紬は、地域ごとに製法や技術に工夫をかさねられ、やがて特産品として確立、発展していった。江戸時代には、たびたび奢侈禁止令が出されて高価な絹物を着ることが禁止されたが、丈夫で外見も質素な紬は、庶民の利用が許される絹織物として人気を博した。

現在、日本各地で伝統的工芸品として生産されている紬は、手間と技術を要することから高級品となったが、その本質は手仕事が生むぬくもりにある。本展では、シルク博物館の所蔵品のなかから、紬の着物や着尺地を展示紹介した。また、現在では伝承が途絶えてしまった神奈川県津久井地方の紬織物「川和縞」の袴1点を借用し、特別出品した。

【会期】令和4年4月23日（土）から6月5日（日） 38日間

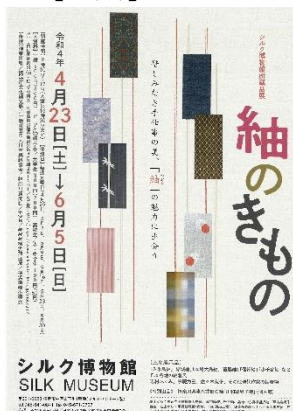
【主催】シルク博物館

【後援】神奈川県／横浜市文化観光局／一般財団法人日本真綿協会／神奈川新聞社／
t v k／NHK 横浜放送局／横浜繊維振興会

【展示】伝統的工芸品の紬、現代作家（人間国宝）の紬着物、特別展示「神奈川の幻の紬・川和縞の袴」

【パンフレット】「紬のきもの」B5判 3つ折

【写真】



ポスター



志村ふくみ作 草木染紬織「叢」



会場展示風景

【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	631	262	437	210	164	453	1,144	3,301
外国人	14	0	2	1	0	73	8	98
計	645	262	439	211	164	526	1,152	3,399

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

ウ 秋の特別展

横浜・生糸ものがたりⅢ「横浜から世界へ—海を渡った生糸—」

近代日本の夜明けとともに始まった生糸貿易について横浜の町や生糸取引の様子を描いた浮世絵や版本、束装生糸などの資料を展示し、日本を代表する貿易都市横浜の発展を支えた人々を紹介した。

展示資料のうち、横浜絵を代表する絵師の一人である貞秀が描いた6枚続の浮世絵「再改横浜風景」、開港当時の横浜の様子を描いた版本『横浜開港見聞誌』、明治から大正時代の横浜の街並みを撮影した手彩色の絵葉書は近年収集した資料として、当館において初公開した。

なお、本展での展示を契機として、NHKの歴史番組に中居屋重兵衛が取り上げられた。

【会期】令和4年10月1日（土）～11月13日（日）（開催期間38日間）

【主催】シルク博物館

【協賛・後援】一般財団法人織貿会館

【後援】神奈川県／横浜市教育局／横浜市中区／群馬県嬬恋村／神奈川新聞社／tvk／NHK横浜放送局／東京織物卸商業組合／中居屋重兵衛顕彰会／横浜繊維振興会

【展示構成】生糸貿易の夜明け／居留地貿易—売込商と外国商館／アメリカの絹織物業と日本の生糸

【資料協力】神奈川県立歴史博物館／東京農工大学科学博物館／公益財団法人三井文庫／横浜開港資料館／安齋英哉／上山和雄／黒岩幸一／仙田郁雄

【記念講演会】全3回 延べ54名

「開港場横浜の都市建設」

横浜開港資料館・横浜都市発展記念館 館長 青木祐介氏

「生糸貿易の夜明け」

横浜開港資料館 館長 西川武臣氏

「アメリカへ渡った日本生糸」

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館 館長 上山和雄氏

【図録】「横浜・生糸」ものがたりⅢ『横浜から世界へ—海を渡った生糸—』 A4判 40頁

【写真】



座繰りの束装生糸



「再改横浜風景」貞秀



開港直後に大量の生糸を扱った中居屋重兵衛の日記
(黒岩幸一、安斉英哉所蔵)



下段：三井文庫所蔵 富岡製糸所の生糸（明治 34 年）
上段：器械製糸の束装生糸

【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	546	368	271	157	130	729	961	3,162
外国人	28	9	3	1	0	117	43	201
計	574	377	274	158	130	846	1,004	3,363

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

(2) 教育普及事業

『チャレンジ！かいこプログラム』

昨年度までに引き続き、蚕種配布・かいこ教室・たのしいかいこの発表会等の事業や通年開催のワークショップ・学校利用等、当館の子ども向け教育普及事業を「チャレンジ！かいこプログラム」と総称して推進した。

ア 第1弾 蚕種配布

蚕の飼育を通してシルクに興味を持っていただくことを目的とし、横浜市内を含めた神奈川県内全域の小学校等に蚕種の有償配布を実施した。なお、指導者用資料として蚕種配布者全員に「蚕の飼育マニュアル」を配布するとともに、教員を対象とした蚕についての講座も開講した。

【配布日】 令和4年5月12日(木)～5月14日(土) (3日間)

【配布件数】 172件 (うち横浜市立小学校77件、県内公立小学校13件、その他82件)

【配布数】 蚕種：325袋 (1袋約450粒入)、人工飼料：200本

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者※
かいこについての講座	5/12(木)～14(土)	5回	当館職員	69人

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1団体につき1名のみ参加可能とした

イ 第2弾 かいこ教室

シルクを生み出す「かいこ」について、子どもたちにより一層興味・関心を持っていたくため、夏休み期間を利用して展示や体験を通して、蚕の成長過程・種類、繭や生糸の特徴等について楽しく学ぶかいこ教室を開催した。なお昨年度引き続き、新型コロナ対策のためアクリルパーテーションや消毒液スタンドを設置するとともに三密を避けて実施した。

【会期】 令和4年7月30日(土)～8月14日(日) (計14日間)

【主催】 シルク博物館

【後援】 神奈川県教育委員会／横浜市教育委員会／神奈川新聞社／
tvk／NHK横浜放送局／一般財団法人日本真綿協会

【展示】 めずらしいかいこの展示および人気投票、昨年度めずらしいかいこの展示の人気投票結果、まゆるんと学ぼう！「かいこ」ってどんな生き物？(蚕の生態に関する解説パネル)、みんなで作ろう！桑の木パネル

【体験】 映画「かいこ」の上映、かいこの観察会、まゆる人形作り、生糸のランプシェード作り、まわたのスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー

(平日)

体験内容	参加者
映画「かいこ」の上映	268人
かいこの観察会	289人
まゆる人形作り	282人
生糸のランプシェード作り	264人

※各体験は1日2回、各回定員20名で開講し、1日で全ての体験に参加できるプログラムとした。

※「まゆる人形」「生糸のランプシェード」は有料(参加費各200円)。

(土日・祝日)

体験内容	参加者
まわたスタンド作りとシルク博物館の見学ツアー	124人

※1日3回、各回定員8名で開講した。

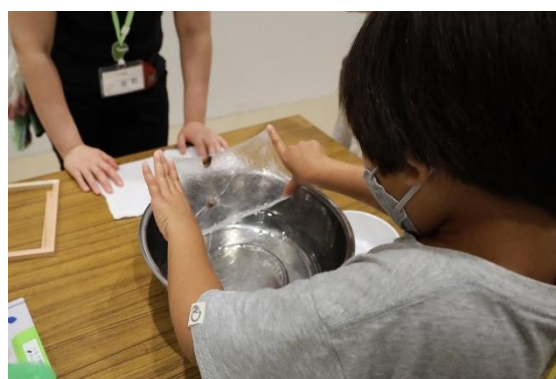
【写真】



かいこの観察会



まゆ人形作り



まわしたスタンド作り

【入館者数】

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	377	47	270	253	25	248	213	1,433
外国人	5	0	2	0	0	0	2	9
計	382	47	272	253	25	248	215	1,442

※「無料」：招待券、優待券など無料入館者

ウ 第3弾 団体利用・ワークショップ

a 団体利用

団体見学のなかでも学校利用が大きな割合を占める当館では、説明や映写、ワークシートの利用を含めた見学を通して、蚕について知識を深めるとともに、蚕が生み出す「シルク」の学習へとつながられるよう、見学内容の充実を図った。また、学校やクラスによって学習したい内容が異なるため、事前に担当教員との打ち合わせを行った。

【団体利用数】 82 校　うち小学校は 45 校（横浜市立校 37 校）

【下見数】 36 校

b 子ども向けワークショップ

蚕や繭の特徴等について、子どもたちが楽しく学べるよう、当館オリジナルキャラクター「まゆるん」のまゆ人形作り、真綿を利用したあひる人形作り及び、生きている蚕を観察しながら学ぶかいことシルクの勉強会を開催した。

【開催日等】

企画名	実施日（各土曜日）	回数	講師	参加者
まゆ人形作り	4/9、5/7・28、6/11、8/27、9/24、10/8、11/12、1/7	9 回	当館職員	25 人
まわた人形「あひるの親子」作り	4/30、5/21、7/2、10/29、2/25	5 回	当館職員	14 人
かいことシルクの勉強会	6/4・25、10/1、11/5、1/28、3/4	6 回	当館職員	46 人

エ 第 4 弾 たのしいかいこの発表会

「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成として、子どもたちが飼育した蚕の観察記録、繭や生糸を使った作品を募集し、蚕について学んだ成果等を発表する機会として開催した。なお、12 月 18 日(日)には表彰式を実施した。

【会期】 令和 4 年 12 月 3 日(土)～令和 5 年 1 月 15 日(日)（開催期間 30 日間）

【展示】 出品作品の展示（出品団体数 27 件、制作者総数 869 名、出品数 465 点）、
みんなでつくろう！桑の木パネル

【関連企画】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
生糸のランプシェード作り クリスマスバージョン	11/26(土)、 12/17(土)	2 回	当館職員	10 人
まゆのオーナメント作り	12/3(土)	1 回	当館職員	8 人
まわたの天使作り	12/10(土)	1 回	当館職員	3 人
たのしいかいこの発表会 表彰式	12/18(日)	1 回		153 人

【写真】





表 彰 式

【入館者数】 同時開催のシルキークリスマスの入館者数を含む

(単位：人)

区分	正規料金			割引料金			無料※	計
	一般	シニア 大学生	高校生以下	一般	シニア 大学生	高校生以下		
日本人	254	80	6	115	47	1	1,402	1,905
外国人	22	5	1	4	0	0	2	34
計	276	85	7	119	47	1	1,404	1,939

※「無料」：期間中の小・中、招待券、優待券利用、及び無料入館日である 12 月 18 日(日)の入館者

(3) 実演・講習会

ア くみひも作り体験

鎧や刀などに使われ、現在でも帯締めや懐中時計の紐など様々な使い方がされている「くみひも」をより身近に感じていただくため、くみひもストラップ作りの体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日（各土曜日）	回数	講師	参加者
くみひもストラップ作り	4/23、6/18、7/16、9/3、10/22、 12/24、1/21、3/25	8 回	当館職員	36 人

イ 手作り真綿の実演と講習会

真綿作りの伝統的な技術を次の世代に伝えるため、真綿に関する実演や講習会を開催した。

【後援】 一般財団法人日本真綿協会

【講習会開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
手作り真綿の講習会	7/9(土)・10(日)	2 回	河 合 貞 子	8 人
手紬糸作り講習会	10/23、11/27（各日曜日）	2 回	永 田 順 子	12 人

【実演開催日等】

企画名	実施日(各土曜日)	回数	講師
手作り真綿の実演	4/16、7/23、9/10、11/19、2/18	5回	河合貞子
真綿からの太糸作り実演	5/14、8/20、10/15、3/18	4回	河合貞子
手紬糸作り実演	5/8、9/11、2/26	3回	永田順子

ウ スカーフ染め体験

シルクスカーフに親しんでいただくため、シルクハンカチにビー玉やゴムを使って簡単な絞り模様をほどこし、草木染め染料による染色体験を実施した。

【開催日等】

企画名	実施日	回数	講師	参加者
スカーフ染め体験 (成人向け)	9/25(日)	1回	佐藤のり子	3人
小さなシルクハンカチ染め体験 (子ども向け)	9/18(日)、9/19(月・祝)、 1/8(日)、9(月・祝)	4回	佐藤のり子	20人

(4) 講座・講演会

ア 外部講師による講座「きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷」

「きもの」を通して、日本における伝統的な色や文様に各時代でどのような特徴や流行があったか、また現代に至るまでどのように受け継がれ、変遷したか、専門家を講師に招き全3回にわたり様々な側面から考察した。

【開催日等】

講座名	実施日	講師	参加者
「日本文化の中での色と模様」	1/14(土)	長崎巖 氏 (共立女子大学博物館長 ・家政学部教授)	20人
「桃山～江戸時代の衣装デザインにみる、流行の変遷」	2/12(日)	小山弓弦葉 氏 (東京国立博物館 調査研究課 工芸室長)	16人
「変わりゆくきもの―幕末から昭和初期」	3/11(土)	澤田和人 氏 (国立歴史民俗博物館 情報資料研究系 准教授)	16人

イ 常設展示ギャラリートーク

常設展示に沿って案内しながら、蚕や絹、染織品など多彩な話題を学芸員が来館者へわかりやすく解説した。

【開催日等】

内容	実施日	回数	講師	参加者
「蚕の生態」について	4/2(土)	1 回	佐野遊海	—
「江戸時代から昭和時代の着物について」	9/17(土)	1 回	石渡桃子	3 人
一枚布の民族衣装	2/4(土)	1 回	石鍋由美子	4 人

(5) 夏の個人向け蚕種配布

『チャレンジ！かいこプログラム』第一弾 蚕種配布とは別に、かいこの飼育を希望する方からのご要望にお応えし、個人向けの蚕種配布を行っている。令和4年度は、「全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン カイコを育てよう 2022」対象事業として実施した。

【配布日】令和4年7月22日（金）～24日（日）（3日間）

【配布件数】47件

【配布数】蚕種：48袋（1袋約20～100粒入）

(6) 博物館実習生の受入れ

学芸員養成に協力するとともに当博物館を広く周知し、絹に対する理解と関心を深めていただくため、講義と普及活動の実践（蚕の飼育も含む）による受入れを行った。実習では蚕の飼育、桑葉の収穫、展示パネル作成、夏の子ども向け企画「かいこ教室」において指導役として普及活動の実践等を行った。実習中に学んだことを来館者に自ら説明することで、絹に関わる産業、歴史、文化への興味関心を深めていただく機会とした。

【実習期間】令和4年7月27日(水)～8月16日(火)（3班に分け実施）

【受入校】中央大学（4年）、立教大学（3年）、和光大学（4年）、専修大学（3年）

桜美林大学（3年）、東京女子大学（4年）、明星大学（4年）、

武蔵野美術大学（4年）、東海大学（4年）、女子美術大学（4年）

各1名、計10人

(7) 連携事業

ア 全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン「カイコを育てよう！2022」

今年度から新たに、一般財団法人大日本蚕糸会が中心となり、これに各地の蚕糸関係博物館等が協力し合って実行委員会を立ち上げ、各館が開催する「かいこの飼育体験」等の催事を通じて、蚕糸業の現状を知ってもらうとともに、これからの蚕糸業を考えてもらうための取組を実施した。

【当館対象事業】夏の個人向け蚕種配布

令和4年7月22日（金）～24日（日）（3日間）

【主催】「カイコを育てよう！2022」実行委員会／一般財団法人大日本蚕糸会

【参加施設】群馬県立日本絹の里／駒ヶ根シルクミュージアム／岡谷蚕糸博物館-シルクファクトリーおかや-／西予市野村シルク博物館／ジャパンシルクセンター／シルク博物館

【後援】蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会／全国シルクビジネス協議会

イ シルキークリスマス

多くの方々にシルク博物館に来ていただき、楽しくシルクへの理解と関心を深めていただくことを目的として、12月18日（日）を「シルキークリスマス」としてクリスマスイベントを実施した。当日は入館無料とし、午前中、「たのしいかいこの発表会」表彰式を開催し、午後は関東学院大学の学生によるスカーフファッションショー映像の上映、横浜市民広間演奏会によるクリスマスコンサート（クラシック・ヨコハマ2022）を実施した。また、シルクミュージアムショップの協力により、シルクフェア（スカーフやネクタイ等のワゴン販売）も実施した。なお、「たのしいかいこの発表会」会期中、関東学院大学、横浜市歴史博物館との共催による横浜輸出スカーフ展示「Yokohama meets Africa 横浜スカーフにアフリカの風」を開催した。

【日時】令和4年12月18日（日）

【主催】シルク博物館

【協力】関東学院大学／横浜市歴史博物館／クラシック・ヨコハマ2022 横浜市民広間演奏会／横浜シルクミュージアムショップアソシエーション

【入館者】（無料入館日） 総入館者数 316 人

プログラム名	出演者等	観覧者
シルクスカーフを用いたファッションショーの上映（2回開催・当日受付）	関東学院大学	7 人
クラシック・ヨコハマ 2022 ミュージアムコンサート（事前予約制）	横浜市民広間演奏会	49 人

【写真】



コンサート



横浜スカーフ展示風景

(8) 資料活用事業

ア 購入 無し

イ 寄贈 1件 2点

資 料 名	点数	寄 贈 者
銘仙の着物、羽織	2点	原島智子氏

ウ 特別利用 7件 22点

資 料 名	点数	特別利用内容／掲載誌等	利 用 者	掲載日等
蚕織錦絵	8点	展覧会準備のための熟覧	馬の博物館	6/24
『大日本蚕糸会報』第375号口絵写真「三月九日来朝の米国絹業家一行」	1点	タウンニュース茅ヶ崎版 連載コラムにて図版掲載	タウンニュース社（湘南支社）	11/25
「蚕と桑葉」、「繭」画像	2点	『横浜の名園 三溪園』に掲載	合同会社 彰美堂	12/18
常設展示室の撮影	一式	動画、静止画を神奈川大学国際日本学部講義内で制作するオンラインツアーコンテンツ「横浜シルクの紹介」に利用	神奈川大学国際日本学部准教授 崔瑛	12/27
蚕織錦絵	8点	馬の博物館展覧会「浮世絵美人と馬」図録に図版掲載	馬の博物館	1/20
シルク博物館外観、館内の撮影	一式	東京学芸大学「高校探求プロジェクト」教材として動画を利用	村井明日香氏	2/17
生糸商標「栃木 清水製糸」	1点	小6向けオリジナルテキストにて画像使用	早稲田アカデミックソリューション	R5.4～

エ 収蔵品の修復

当館所蔵の生糸商標のうち、アルバム台紙に貼り付けられた商標と、酸性紙に糊付けされていた商標を1枚ごと台紙から剥がしてポケットフィルムに収蔵した。

(9) 刊行物

- ・企画展パンフレット「紬のきもの」B5判 3つ折 令和4年4月発行
- ・特別展図録『横浜から世界へ 海を渡った生糸』A4 40頁 令和4年10月発行
- ・「2022.10－2023.3 催しものご案内」A3 四つ折り 令和4年9月発行
- ・「2023.4－9 催しものご案内」A3 四つ折り変形 令和5年3月発行

(10) 執筆

題 名	掲載先	掲載日	執筆者
シルク博物館の小袖コレクション	博物館研究 令和4年7月号	7月	石鍋由美子
「シルク博物館 ～生糸の集積地・横浜に建つ絹の総合博物館～」	『繊維学会誌』第78巻18号	11月	佐野遊海

(11) レファレンス

蚕を飼育する学校、個人からの問い合わせのほかに報道機関からのシルクに関する問い合わせなどが多数あった。

分 類	主 な 内 容
蚕の飼育に関して	飼育方法（ふ化から繭作りまでの各過程）
	繭の活用方法（糸くり、繭人形、染色、真綿作り）
	蚕の入手方法
	人工飼料の入手方法
	エサ（桑葉）の確保
蚕糸業に関して	絹の道
	養蚕農家
	幕末の繭購入について

(12) 後援・協力

ア 後援等

後援内容	事 業 名	主 催	期 間	事業内容
後援名義使用	2022年「横浜ファッションウィーク」	横浜ファッションウィーク実行委員会	4/28(木)～5/7(土)	横浜市内のファッション産業の振興、生活文化産業の発展を目指し、横浜の代表的な地場産業である「横浜スカーフ」の振興産業として実施
	横浜みなと博物館 ゲストトークシルクスペシャル	公益財団法人帆船日本丸記念財団	10/23(日)	横浜みなと博物館に横浜繊維振興会の皆様をお迎えし、横浜港の主要輸出品であった生糸及び横浜の地場産業となったスカーフ産業について理解を深める講座を実施

	横濱コクーン・スクウェア	横濱コクーン・スクウェア 実行委員会	11/4(金)・ 5(土)	かつて生糸の集積地、輸出港であったことから日本の経済、文化を牽引した横浜の歴史をはじめ、絹が持つ有用性、資源としての可能性を伝えるとともに、絹文化の啓蒙や伝統の継承および絹関連商品を展開することにより、横浜及び絹産業の活性化に寄与することを目的として実施
--	--------------	-----------------------	------------------	---

イ 他機関への協力

協力内容	事業名	主催	期間	備考
広告掲載紙及びチラシによるクーポン券の配布	2022 年横浜ファッションウィーク	横浜ファッションウィーク実行委員会	4/28(木)～ 5/7(土)の 10 日間	クーポン券1枚持参につき、大人2名まで入館無料
賞品協賛としてオリジナル筆箋“夏”かつら1冊と招待券1枚を1セットとし、計10セットを提供	ハマフェス Y163	ハマフェス実行委員会	5/28(土)・ 29(日)	招待券(大人2名まで入館無料)
参加者配布用の招待券(30枚30名分)を提供	横浜みなと博物館 ゲストトークシルクス ペシカル	公益財団法人 帆船日本丸記念財団	10/23(日)	参加者:34人
招待券10枚の提供	第48回筑波大学学園祭	筑波大学学園祭実行委員会	11/5(土)・ 6(日)	
広告掲載紙及びチラシによるクーポン券の配布	かながわシルクフェア	かながわシルクフェア実行委員会	3/13(月)～ 20(月) 8 日間	クーポン券1枚持参につき、大人2名まで入館無料

(13) 職員の派遣

協力内容	事業名	主催	期間	備考
第62回東日本伝統工芸展鑑査副主任として石鍋学芸課長を派遣	第62回東日本伝統工芸展 出品者研究会	公益財団法人 日本工芸会東 日本支部染織 部会	4/7(木)	
川崎市立日本民家園専門部会へ委員として高橋副館長を派遣	川崎市社会教育委員会 議日本民家園専門部会	川崎市立日本民家園	5/21(土)、 12/10(土)、 3/26(日)	
川崎市市民ミュージアム文化レスキューに高橋副館長を派遣	被災した民俗文化財のレスキュー作業	神奈川県博物館協会	5/31(火)、 12/6(火)・7(水)	

横浜市教育委員会へ文化財審議員として高橋副館長を派遣	横浜市文化財審議会	横浜市教育委員会	7/12(火)、 10/12(水)、 2/15(木)	
茅ヶ崎市立南湖公民会地域課題解決等事業に石鍋学芸課長を派遣	「シルク博物館見学会 横浜から世界へ―海を渡った生糸―」	茅ヶ崎市立南湖公民館	10/16(日)	展示解説と周辺生糸関係史跡案内
川崎市民アカデミー講師として高橋副館長を派遣	「川崎学」	NPO 法人かわさき市民アカデミー	10/19(水)、 11/9(水)、 1/25(水)	
よこはま共創博覧会2022 へ高橋副館長を派遣	「対話と探究の場としての博物館と街のあり方を考える～シルクを糸口にして」	横浜市	10/21(金)	シンポジウム
江東区教育委員会へ文化財審議員として高橋副館長を派遣	江東区文化財審議会	江東区教育委員会	11/24(木)、 2/2(木)、3/9(木)	
小田原市郷土文化館協議会委員として高橋副館長を派遣	小田原市郷土文化館協議会	小田原市教育委員会小田原市郷土文化館	11/25(金)、 2/10(金)	

(14) 広報

当館の特別展や基本情報等について、各種媒体に働きかけた。今年度、掲載された先は次のとおり。公式ツイッターは4日に1回のペースで更新中。

ア 春の企画展 シルク博物館所蔵品展 「紬のきもの」

区分	媒体名	名称
新聞	読売新聞(4月22日)	地域の情報
新聞	産経新聞(5月6日)	東京 plus
新聞	神奈川新聞(5月20日)	エンタメ (記者来館)
新聞	東京新聞(5月23日)	地域の情報
業界紙	染織新報(5月16日)	
情報紙	横浜画廊散歩(4月号)	
機関誌	博物館研究(4月号)	
機関誌	商工季報(春号)	
機関誌	シルクレポート(4月号)	
機関誌	シルクレポート(7月号)	開催報告
タブロイド紙	定年時代(5月10日)横浜川崎版	地域の情報
Web	ハマフェス	
Web	婦人画報デジタル(5月11日)	

イ 秋の特別展 横浜・生糸ものがたりⅢ「横浜から世界へ―海を渡った生糸―」

区分	媒体名	名称
新聞	読売新聞群馬県版(7月14日)	
新聞	神奈川新聞(9月30日)	Friday かながわ
新聞	産経新聞(10月7日)	
新聞	東京新聞(10月7日)	地域の情報 (記者来館)
新聞	神奈川新聞 (11月5日)	地域の情報 (記者来館)
テレビ	NHK 首都圏ニュース	(記者来館)
機関誌	博物館研究(10月号)	
機関誌	商工季報(秋号)	
機関誌	シルクレポート(10月号)	
機関誌	シルクレポート(1月号)	開催報告
タブロイド紙	定年時代(11月7日)東京版、横浜川崎版	

ウ チャレンジ! かいこプログラム

(ア) 「かいこ教室」

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞(7月29日)	エンタメ
ラジオ	ハロー神奈川 (7月21日)	
機関誌	博物館研究(7月号)	
機関誌	シルクレポート(7月号)	
機関誌	シルクレポート(10月号)	開催報告
Web	ハマフェス	
タブロイド紙	定年時代(8月1日)横浜川崎版	

(イ) 「たのしいかいこの発表会」

区分	媒体名	名称
新聞	神奈川新聞(12月15日)	イマカナ
新聞	東京新聞(12月26日))	地域の情報
機関誌	博物館研究(7月号)	
機関誌	シルクレポート(10月号)	
Web	いこーよ	
Web	ヨコハマアートナビ	

エ 講座 「きものの意匠にみる日本の伝統色・文様とその変遷」

区分	媒体名	名称
Web	大原和服専門学園「きものつく」	

オ ワークショップ、実演

区分	媒体名	名称
機関誌	博物館研究 4月～11月号、2月号	

カ 常設展、基本情報

区分	媒体名	名称
テレビ	テレビ東京	「よじごじ Days」
テレビ	テレビ朝日	「じゅん散歩」
情報誌	横浜市	暮らしのガイド
情報誌	(合同)あるつく社	「横浜散歩 2023」
書籍	(株)Gakken (かいこについて)	「図鑑 LIVE 昆虫」
Web	YOKOHAMA 教育旅行ガイド	館情報
Web	観光かながわNOW	館情報
Web	るるぶKids	館情報
Web	いこーよ	館情報
Web	大空出版「JAPAN View」	館情報
Web	NAVITIME	館情報
Web	インフォメーションテクノロジー関西	館情報
Web	ヨコハマ・ギャラリー・マップ	館情報
Web	大原和服専門学園「きものつく」	館情報
アプリ	まちまなび	館情報
業界誌	生活の友社「美術界データブック」	館情報
	美術年鑑社「美術年鑑」	館情報

キ その他

区分	媒体名	名称
Web	ヨコハマアートナビ	横浜輸出スカーフ展示
Web	ヨコハマアートナビ	シルキークリスマス
Web	いこーよ	シルキークリスマス

(15) その他

ア オリジナル商品の開発

オリジナル商品として友禅訪問着「山葡萄」田島比呂子作の意匠を用いた「一筆箋」シリーズの第四弾「秋・山葡萄」を製作し、8月に販売を開始した。



5 資料

(1) 組織と職員

【組織図】

一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館

専務理事 — 事務局長

↓

(シルク博物館)

館長(1) — 副館長(1) 学芸課長(1)

主査(1) 学芸員(2)

臨時職員(4)

※()内は人員数

【委嘱者氏名】	名誉館長	マリ	クリスティーヌ
【職員氏名】	館長	慶徳	俊哉
	副館長(学芸員)	高橋	典子
	学芸課長(学芸員)	石鍋	由美子
	主査	前田	恵美子
	学芸員	佐野	遊海
	学芸員(非常勤職員)	石渡	桃子

(2) 事業費

(単位：円)

費 目	内 容	支 出
博物館事業費		8,788,478
(内訳)		
普及事業費	常設展示費・特別展開催等	6,534,634
資料整備費	資料補修費・図書資料等収集費等	694,914
広報事業費	広告掲載費・広告資料作成費等	1,194,166
運営管理費	運営委員会開催費・損害保険料	364,764

(3) 所蔵資料

(単位：点)

資 料 名	前年度末の累計 収集・寄贈	令和4年度		本年度末の累計
		購入	寄贈	
資 料	6,933	0	2	6,935
写真・ビデオなど	610	0	0	610
図 書	6,649	23	22	6,694
計	14,192	23	24	14,239

(4) 入館者状況

(単位：人)

区 分	個 人			割引料金 ※2			無料 ※3	合 計
	一般	シニア・大	高校生以下	一般	シニア・大	高校生以下		
4 月 【 22 日】	244 (9)	57 (0)	107 (0)	113 (2)	44 (0)	65 (0)	308 (0)	938 (11)
5 月 【 26 日】	421 (12)	189 (0)	306 (2)	110 (0)	92 (0)	389 (73)	896 (8)	2,403 (95)
6 月 【 22 日】	331 (6)	115 (0)	307 (0)	126 (0)	64 (0)	1,130 (0)	415 (0)	2,488 (6)
7 月 【 27 日】	350 (10)	49 (0)	184 (2)	120 (0)	47 (0)	310 (0)	429 (10)	1,489 (22)
8 月 【 25 日】	482 (6)	80 (3)	296 (0)	268 (0)	32 (0)	246 (0)	377 (2)	1,781 (11)
9 月 【 22 日】	208 (10)	80 (0)	75 (0)	48 (1)	39 (0)	475 (2)	306 (0)	1,231 (13)
10 月 【 26 日】	369 (18)	232 (5)	186 (0)	103 (1)	65 (0)	435 (0)	541 (0)	1,931 (24)
11 月 【 22 日】	308 (21)	192 (6)	165 (3)	132 (1)	98 (13)	573 (117)	639 (45)	2,107 (206)
12 月 【 22 日】	172 (21)	64 (5)	90 (1)	86 (1)	39 (0)	123 (62)	1,144 (22)	1,718 (112)
1 月 【 23 日】	233 (16)	55 (1)	123 (3)	72 (5)	108 (0)	165 (0)	524 (0)	1,280 (25)
2 月 【 23 日】	246 (20)	79 (7)	131 (3)	75 (0)	57 (0)	880 (43)	342 (12)	1,810 (85)
3 月 【 27 日】	315 (62)	147 (37)	95 (4)	297 (1)	33 (1)	88 (2)	430 (5)	1,405 (112)
計 【 287 日】	3,679 (211)	1,339 (64)	2,065 (18)	1,550 (12)	718 (14)	4,879 (299)	6,351 (104)	20,581 (722)

※ 【 】：開館日数、()：外国人の人数を内書き

※2 「割引料金」：各種割引による入館者

※3 「無料」：招待券、優待券等による無料入館者

※4 令和元年度9月以前は「シニア・大」：シニアのみ、大学生は「高校生以下」に含まれている。

(5) 過去の特別展・企画展一覧

年 度	特 別 展 等
1959(昭和 34)	シルクセンター竣工記念全国輸出振興展 特別展『蚕織錦絵展』
1960(昭和 35)	特別展『近世日本衣装名品展』
1961(昭和 36)	特別展『近代染織名作展』
1962(昭和 37)	特別展『日本伝統染織工芸展』
1964(昭和 39)	特別展『オリンピック東京大会記念シルクフェア』
1965(昭和 40)	特別展『能装束展』
1966(昭和 41)	「第 8 回米国貿易見本市出品絹製品展示会」 特別展『伝統染織作品と紅染資料展』
1967(昭和 42)	特別展『紋と繡の美展』
1968(昭和 43)	特別展 開館 10 周年記念『シルク博物館所蔵品展』
1969(昭和 44)	特別展『江戸時代能装束展』
1970(昭和 45)	特別展『花のきものと髪かざり展』 特別展『第 1 回シルク博物館染織作品展』
1971(昭和 46)	特別展『第 2 回シルク博物館染織作品展』
1972(昭和 47)	特別展『第 3 回シルク博物館染織作品展』
1973(昭和 48)	特別展『第 4 回シルク博物館染織作品展』
1974(昭和 49)	特別展『第 5 回シルク博物館染織作品展』
1976(昭和 51)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』
1977(昭和 52)	特別展『世界の民族衣装展』
1978(昭和 53)	特別展『人間国宝による「絹の伝統染織名作展」』
1979(昭和 54)	特別展『横浜絹の祭典と染織新作展』
1980(昭和 55)	特別展『思い出のきもの展』
1981(昭和 56)	特別展『草木染展と染織新作展』
1982(昭和 57)	特別展『洋装のあゆみとニューファッション展』
1983(昭和 58)	特別展『ふるさとの絹展と第 8 回染織作品展』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』
1984(昭和 59)	特別展『花嫁衣装展』 特別展『江戸期から現代までの「江戸小紋展」』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『郷土かながわの染織作品展』
1985(昭和 60)	特別展『日本人形の細工物展』 企画展『母と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『フランス絹織物栄光とその先達「リヨン織物美術館秘蔵品展」』
1986(昭和 61)	特別展『ヨコハマのスカーフ展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『関東の絹展と第 9 回染織作品展』
1987(昭和 62)	特別展『レースの美展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『ファッションデザイナーによる'87 ニューウェーブきもの展』
1988(昭和 63)	特別展『ふろしきの今昔展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『'88 ニューシルク展と第 10 回染織作品展』
1989(平成元)	特別展『シルク博物館所蔵名品展』 企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』 特別展『華麗なる絹の世界へ「絹の文化展」～江戸と現代～』
1990(平成 2)	特別展『「日本の紬展」～紬のふる里を訪ねて～』

1990(平成 2)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクまつり'90 と第 11 回染織作品展』
1991(平成 3)	特別展『館蔵「蚕織錦絵展」～錦絵にみる時代風俗と衣装～』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～桂由美コレクション～「世界の民族花嫁衣装展」』
1992(平成 4)	特別展『館蔵「染織名品展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'92 と第 12 回染織作品展』
1993(平成 5)	特別展『館蔵「江戸小袖展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「絹と化粧まわし展」～戦後横綱の化粧まわしによる～』
1994(平成 6)	特別展『館蔵「江戸古裂展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェスタ'94 と第 13 回染織作品展』
1995(平成 7)	特別展『～繡の美～「甞る足柄刺繡展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『「思い出のきもの展」－PART II－ ～昭和・平成の衣裳作品から～』
1996(平成 8)	特別展『～日本人の贈りもの～「掛袱紗展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『シルクフェア'96 と第 14 回染織作品展』
1997(平成 9)	特別展『アヅマカブキの舞踊衣装展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『～手織りの芸術美～「ラオスの伝統織物展」』
1998(平成 10)	特別展『カイクの道具展とシルクフェア'98』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 15 回染織作品展と秋のシルクフェア』
1999(平成 11)	特別展『文化の伝承－江戸から現代へ「華麗なる能装束の美」展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『染めの美織りの美 ～人間国宝作家作品を中心として～』
2000(平成 12)	特別展『沖縄の伝統染織展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 16 回全国染織作品展』
2001(平成 13)	特別展『人生をかけた荒井照太郎の手描友禅その美』
	企画展『「熊田千佳穂の昆虫記録展」と親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ブータンの民族衣装とシルクフェア』
2002(平成 14)	特別展『中村光哉友禅染色の詩展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 17 回全国染織作品展とシルクフェア』
2003(平成 15)	特別展『糸目友禅の巧み「人間国宝 山田貢展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『市田ひろみコレクション「世界の民族衣装展」』
2004(平成 16)	特別展『自然をいつくしむ手描友禅「人間国宝 田島比呂子展」』
	企画展『親と子の「歌舞伎人形とかいこの自然科学教室」』
	特別展『第 18 回全国染織作品展』
2005(平成 17)	特別展『世界のふろしき展』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『今に伝えるつむぎの魅力』
2006(平成 18)	特別展『「人間国宝 細見華岳展」－綴織に心を込めて－』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』

2006(平成 18)	特別展『第 19 回全国染織作品展』
2007(平成 19)	特別展『インド サリーの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『旧山辺知行コレクション「インドの染織展」』
2008(平成 20)	特別展『アロハ・デザイン展』
	特別展『ラオス女性が伝える手織りの世界』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 20 回全国染織作品展』
2009(平成 21)	特別展『佐賀錦のみやびな世界「人間国宝 古賀フミ展」』
	特別展『開館 50 周年記念「ヨコハマ開港とシルク展」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『鈴木一コレクション「古渡り更紗と名物裂展」』
2010(平成 22)	特別展『ペルシャシルク絨毯の世界』
	特別展『華麗なる能装束「稔りの季」』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 21 回全国染織作品展』
2011(平成 23)	特別展『「三浦景生展」ーヨコハマ染陶暦程ー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー平山郁夫シルクロード美術館コレクションー 「豊饒なる色彩ーウズベキスタンの布と器」
2012(平成 24)	特別展『「美しい日本の絹」ユミ カツラブライダルコレクション』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 22 回全国染織作品展』
2013(平成 25)	特別展『群馬県立日本絹の里との提携記念 「夢を紡いだシルク」ー「蚕の国」群馬と「シルクの街」ヨコハマー』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『ー美しい日本の絹ー「友禅」』
2014(平成 26)	企画展『世界に羽ばたいたスカーフたち』
	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『第 23 回全国染織作品展』
2015(平成 27)	企画展『親と子の「かいこの自然科学教室」』
	特別展『今に生きる 江戸小紋 ～小宮家四代の作品を中心に～』
2016(平成 28)	企画展『キモノの美ー人間国宝田島比呂子の友禅ー』
	特別展『第 24 回全国染織作品展』
2017(平成 29)	企画展『ふくらむ はずむ まじわる シルクの輝きを知る～織りの美～』
	特別展『横浜・生糸ものがたりⅠ “かいこ” と暮らすーかながわ養蚕録ー』
2018(平成 30)	企画展『江戸の粋とデザインー小袖コレクションから』
	特別展『第 25 回全国染織作品展』
2019(平成 31・ 令和元)	企画展 開館 60 周年記念所蔵名品展 「シルクのシンフォニー ～染と刺繍のかがやき～」
	特別展 開館 60 周年記念 横浜・生糸ものがたりⅡ 「白き糸の調べーかながわの製糸・撚糸ー」
2020(令和 2)	(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
2021(令和 3)	企画展『描かれた養蚕ー蚕織錦絵の世界ー』
	特別展『第 26 回全国染織作品展』
2022(令和 4)	企画展『紬のきもの』
	特別展 『「横浜・生糸」ものがたりⅢ 横浜から世界へー海を渡った生糸ー』

シルク博物館令和 4 年度年報

令和 5 年6月1日
編集・発行 シルク博物館

〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町 1 番地
TEL045-641-0841